

【優 秀 賞】



氏 名 アラヤン レンズ
カイル ロブレ
国・地域 フィリピン
在日期間 2年
所 属 九州日本語学校

タイトル： お金持ちになりたい

「数えきれないほどのお金！カッコいいスポーツカー！豪華な3階建ての家！」

幼い頃、「何が欲しい？」と聞かれると私は、ためらうことなくこの3つを答えていました。

私はフィリピンの貧しい家庭で育ちました。父は安定しないジープニーの運転手で、母は主婦でした。父の給料は、私たちが生きていくのに最低限のレベルでした。

7歳の私に母は、「カカイ、何になりたいの？」と暖かい笑顔で聞きました。『スーパーマン、スパイダーマン、ヒーローになりたい！』普通の7歳の子供なら、そう答えるのでしょう。でも、私は違いました。幼いながらも、貧困から脱出し、早く成長したいと思っていた私は、「家族を裕福にしたい！」と願っていました。それで、フィリピンの銀行で、たくさんお金を数えていて、豪邸に住んでいる母の親友の兄弟を思い浮かべたのです。自分の部屋さえ持っていない私は、「彼のような銀行員になりたい。お金持ちになりたい！」そう思っていました。

フィリピンの中学校では、「キャリアウィーク」というイベントがあり、大人になったら自分の好きな職業に就くように指導されています。ある時、従妹の恋人のスポーツカーに乗る機会がありました。私のような好奇心旺盛な子供は、その赤いスポーツカーに乗る感覚がカッコいいと思って憧れました。それで、私はビジネスマンに扮して喜んで、食事を準備している母のところに行って、こう言いました。

「*Ladies and Gentlemen, the multi billionaire.*」 「お母さん、やっぱり私はたくさんお金をかせいで、赤いスポーツカーに乗って、街中を乗り回したい！ビジネスマンになってお金持ちになります！」

高校生になった時、学校の課題はインターネットがないと出来ませんでした。しかし、私の家にはインターネットがありませんでした。だから、従妹の豪華な家によく泊まっ

ていました。実は、私の従妹の両親は仕事をしていませんでした。でもどうやってそのような豪華な家に住んでいたのでしょうか。それは、海外駐在員としてスイスで働いているおじがいたからです。それで私はこう思いました。「私は海外で働いて、普段床で寝ている親にいいベッドを買ってあげたい。私はお金持ちになりたい。」

今私は、留学生として日本に滞在し、アルバイトもしています。ここでの生活を通じて、海外で働くことがすべての成功への近道だという考え方は間違っていると気づきました。勉強とバイトの繰り返しは辛かったですが、無駄ではありませんでした。先日、母に電話して日本の大学で勉強するチャンスを得たと伝えました。「卒業して安定した職業に就いたら、必ずお金持ちになる！」と強く伝えました。本来であれば、祝福の時のはずです。しかし、母は泣きながら、「大事な的是お金じゃなくて、家族のための愛情や友情だよ」と言いました。この言葉は、私の胸に深く突き刺さりました。今でもその言葉は鮮明に耳に残っています。

だからもし今、「将来は何になりたいのか」と聞かれたら、やっぱり「お金持ちになりたい！」と絶対にそう答えるでしょう。ですが、それ以上に、「私は、母のようにになりたい」と世界中の人に言いたいです。母のように、どんなに辛くて困難な時でも、笑える。どんな時でも幸せだと言える。今、自分の持っているものに満足できる人になりたい。そう願っています。

皆さんは、何になりたいですか？

いえ、質問を変えましょう。

誰のようになりたいですか？

ご清聴ありがとうございました。